

〔資料提供〕

月 日	担当課（室・館等）	電話	担当者
令和 8 年 3 月 17 日(火)	県立博物館	088-668-3636	井藤大樹 (自然担当・主任)

## 四国初記録かつ分布の北限記録となる 希少魚類（ハヤセボウズハゼ）の発見について

### 1. 概要

阿波魚類研究会の庄野耕生氏が令和 4 年 10 月に高知県土佐清水市貝ノ川を流れる貝ノ川川からハゼの仲間であるハヤセボウズハゼ 1 個体を発見しました。この発見について、徳島県出身で、現在は京都大学大学院生である北尾圭梧氏を中心に、発見者の庄野氏、徳島県立博物館が共同でその成果をまとめ、令和 8 年 2 月 10 日に日本魚類学会が発行する学術誌『魚類学雑誌』にて公開されました。

ハヤセボウズハゼは主に琉球列島以南の河川に生息しますが、高知県で発見された個体は、南方の地域から仔稚魚期に黒潮よって流されて貝ノ川川までやってきたと考えられます。個体数が少なく、琉球列島以南でもきわめて珍しい本種が高知県で確認されたことは驚くべきことです。

### 2. ハヤセボウズハゼとは

- ・ハゼ科（あるいはオクスデルクス科）に分類され、日本や台湾、中国南部の熱帯・亜熱帯域の河川に生息する体長 5 cm ほどの淡水魚類
- ・日本では主に琉球列島以南に生息し、個体数が少なく、環境省版レッドリストでは、絶滅危惧 IA 類に選定されている希少魚類
- ・川で生まれ、仔稚魚は海にくだった後に海流によって広域に分散し、分散先で海から川に入り、川で生育して成魚となる両側回遊魚と考えられている
- ・オスの成魚では、体がメタリックな青や緑色を呈し、きわめて美しい

### 3. 発見の意義

- ・これまで、本種は奄美大島以南のみで確認されていたことから、今回の発見は本種の四国での初記録かつ北限更新記録となる
- ・四国に生息する生物の多様性を理解・把握する上で重要な発見
- ・地球温暖化に伴う海水温の上昇が魚類の分布に与える影響を考える上で重要な事例
- ・地域の自然に興味・関心がある県民による貴重な発見



高知県貝ノ川川で発見されたハヤセボウズハゼ（庄野耕生氏撮影・提供）



高知県貝ノ川川で発見されたハヤセボウズハゼの標本写真（上と同一個体）